

令和元年度

事業所名： グループホーム シリウス前沢

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500063		
法人名	株式会社シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス前沢		
所在地	〒029-4209 岩手県奥州市前沢あすか通四丁目8番地15		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個を尊重した対応の重要性を常に理解しながら日々支援しております。 ・認知症にて自宅生活が困難になっても、当ホームでは自尊心や生きがい維持できる生活が続けられ、笑顔が育つ毎日が送れるよう工夫をしております。 ・心の健康が生活の要であり、葛藤や焦りといった感情起伏に対する支援を環境作りから 取り組めるのがグループホームの利点と考えております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JigyosyoCd=0391500063-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、JR前沢駅に程近い場所にあり、支所や図書館、保育園、公園、大型ショッピングセンター等が近接する、生活環境に恵まれた場所に立地している。開所以来自治会に加入し、自治会の秋祭りは事業所も共催して開催し、地域の行事として定着し多くの住民が参加している。災害に備え地域防災会との協定書を交わし、避難訓練時には地域の方々の参加協力を得るなど、積極的に交流している。介護理念を「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」とし、利用者一人一人の個性を尊重し、笑顔を心の健康の要と捉え、職員と利用者や利用者同士の関りに重きを置き、豊かな共同生活を保障している。特に、介護の基本である排泄については、自尊心に配慮しながら見守りやトイレへの誘導を重ね、自立を助長するなど、職員一丸となって生活支援に取り組んでいる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年2月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム シリウス前沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」を事業所理念としている。利用者様間、利用者様と職員間に加え、地域と事業所の助け合いが成されている。	理念を、事業所の共用ホールに掲示し、朝礼で唱和している。毎月の職員会議と併せて実施している勉強会で、ホーム長から理念について説明し、意識付けしている。理念に基づき、利用者同士、職員間、地域との協力関係が円滑に進むよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のリサイクル活動(空き缶集め)の集積場に当事業所を使用していただいている。地域と共同で「秋祭り」を毎年開催している。	自治会に加入し、事業所の駐車場を自治会活動のリサイクル活動(空き缶集め)の集積場に提供している。年1回、自治会と協同で秋祭りを開催し、子ども連れの家族や自主防災会役員、手踊り団体、高校生のボランティア等、80人以上の参加がある。近くの保育園から七夕祭に招待されたり、園児が水木団子を作って事業所に持って来て利用者と触れ合ったりと、地域と日常的に交流している。	事業所では、保育園児や高校生ボランティア、園芸団体との交流が継続されており、今後は、福祉体験等通じ、小学生や中学生との交流の拡大を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議内では、参加いただく民生委員、町内会長とともに認知症関係の学習会をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災訓練にて水消火器を用いていることを話題にしたら、より実践に近い形での訓練を期待され、粉消火器を寄贈頂いたことがある。	運営推進会議は、区長や民生委員、支所担当職員で構成され、2ヵ月に1回開催している。会議に併せて防災訓練や秋祭りを実施し、委員から意見を頂いている。家族やボランティアグループ、女性等を念頭に、委員の増員を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	過去には、利用者様に面会に来る旦那様への福祉サービスの件で御家族様と市と話し合いの場を設けたことがある。	運営推進会議に、支所市民福祉グループの職員が参加し、事業所の運営や活動を承知し理解も頂いている。支所が近く要介護認定申請では、利用者と一緒に窓口に出向いている。生活保護の医療等の申請でも、担当者と連携して進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の玄関施錠を防犯上おこなっている。それ以外は介護施設において拘束はあり得ないという認識を全職員が共有している。	職員全員が、「身体拘束しない委員会」(身体拘束適正化検討委員会)の構成員となっており、適時勉強会を実施している。時に、利用者に対して「待ってて」等の不適切な対応があり、スピーチロックについて勉強会で学び、少しずつ理解浸透してきている。センサーは玄関に設置しているが、居室にはない。利用者から「(畑の作業で)外に出て良いか」「(近くのコンビニに)アンパン買って来る」との話があれば、職員は利用者の希望に沿って一緒に行動している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様にあり得ないこととして認識しており、内部研修で幾度となく再確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる利用Y差様が発生した際は、速やかに関係機関と連携をとらせていただく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了時及び、例えば利用者様の契約終了となる可能性が出てきた時点から内容について相談や確認を繰り返している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	認知症利用者様が意見や質問を表出しやすい環境づくり関係づくりは支援の優先事項としている。御家族様からも意見が集まりやすいよう、サービス計画に対する質問など筆記でお願いしている。	利用者とは、日々の生活の中で、話しやすい環境作りを心掛けている。家族等の面会は、週に3人から4人ほどあり、意向や意見を聴いている。介護計画に家族のコメント欄を設けており、意見、要望を書いて返送してもらっている。家族からは、外出の要望や共用ホールの飾り付けへのアドバイス等があり、職員で協議しながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は介護業務に入り、他にも職員間で申し送りノートを活用して報告、連絡、相談できる環境に努めている。	職員とは、月1回の職員会議や普段の会話の中で意見を聴き取り、運営に反映している。職員からの提案で、早出の職員の業務負担を軽減するため、日勤の職員が代わって担うなど、職員同士で助け合っている。内容によっては、親会社と協議し具体化に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割の作成前には休日などの勤務希望を募っている。毎月の事業所行事は介護職が主導で行なう。また状況に応じた待遇改善を図るなど仕事への意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として勉強会を定期的開催している。加えてコミュニケーション技法などは働きながらトレーニングして行く、経験年数に応じて段階的に責任を増やす工夫をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社運営の他グループホームが近隣にあり情報交換や相互訪問をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から可能な限り面談回数を重ねて、困っていること求めていることなどを把握して契約後のサービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、契約前から可能な限り連絡を取り不安なことや求めていることを把握して契約後のサービスにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申請いただいた際の、それぞれの実情を把握して他介護サービスの適性を考えていく。必要に応じて相談させていただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は業務時間内の食事は利用者様と同席する。食事の準備、片付けや洗濯物干しや畳み方は利用者様がおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の中には、面会来訪の際には職員や他利用者様とも会話して回を重ねて仲良くなる方がいらっしゃる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	立地条件に恵まれており、家族様以外の友人等の面会も多い。利用者様の中には地域共催の祭りをきっかけに数年ぶりに交流を再開する友人もいらっしゃる。	事業所は、支所や図書館、保育所、支援学校等の公的機関やコンビニ、スーパー等に近く、生活環境に恵まれた場所にあり、隣人、元同僚、親戚等の来訪者が多い。駐車場を会場として行われる地域と共催の秋祭りで、入居を知った友人との交流が始まっている。コンビニでのおやつ買い、通院の帰りに寄り道しスーパーでの買い物、空き家になっている自宅の定期的な様子見、近所の友人宅の訪問など、様々な利用者の馴染みの関係を把握し、介護計画に取り入れて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言動であれ、間接的にも自然発生的に助け合いができ、関わり合う環境が成されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に長期入院することでの契約終了がほぼであるが、入院後の洗濯支援や急性医療期間から療養型医療機関への転院などの際には必要に応じて支援や相談をさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	談話の中から希望や以降は常時行っており、インシデントを検討したうえで希望に沿う支援に努めている。	言葉で上手く伝えられない利用者とは、何気ない一言、仕草、表情、行動から思いを汲み取り、ケース記録に記入し、職員間で共有している。また、理科実験をしたいとの利用者の意向に沿って安全を確認して実験させ、女性の利用者には、台所仕事や洗濯など、得意なことを見つけて積極的に係わりながら生活出来るよう支援している。家に帰りたい、図書館に行きたい、顕微鏡を買いたいなどの要望には、職員が同行し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前から家族様や市町村、利用されている介護サービス事業所から情報収集をしている。入居後も失礼にならないければ、面会の友人等から生活歴の把握をさせていただくこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に職員が近くに居て共に作業するなかで、談話や表情、声量や動作の早さ等こまかい観察ができています。24時間のサイクルも全職員が把握し支援に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員にて定期的にサービス結果のモニタリング及び御本人の意向を再確認している。その後のあらたな計画立案後は、全職員及び家族様にて見直し検討をおこなっている。	ホーム長が兼務する介護支援専門員が、職員会議や日常の雑談などの話し合いの中でモニタリングしている。入居時には、利用者や家族、居宅介護支援事業所の介護支援専門員からの情報を得ながら介護計画を作成し、職員に示し、実践しながらモニタリングを繰り返し、6か月毎に見直しをしている。取りまとめた介護計画は家族に郵送し、了承のサインをして返信していただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、または目的別に複数の記載項目を設けて毎日取り組んでいる。情報共有及び介護計画等に反映されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の性格や特技に合わせて多種多様な余暇援助を工夫している。個々のニーズにも柔軟に対応できるよう業務形態を工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	立地に恵まれ、地域からの協力が厚い。個々のニーズに合わせた協力をさせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と関係づくりができており、必要に応じた服薬調整や往診が成されている。	利用者は、入居前のかかりつけ医を継続して受診している。1名は、家族が会う機会を兼ねて同行し、他の8名は職員が付き添っている。歯科については、必要時には訪問歯科診療を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医、または事業所の協力病院の看護師との関係づくりができており必要な相談ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	10年運営を続けており周辺病院との関係づくりは成されている。入院中のお見舞いや必要に応じた病院関係者との面接にて情報や協力をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時および必要に応じて本人・家族等への説明をして方針を共有している。本人・家族のニーズに応じた提案ができるよう、上記の関係づくりが活かしている。	重度化対応の事業所指針を作成している。看取りは行っていないが、重度化した場合には、出来るまで事業所に対応する旨の方針を入居時に説明し、同意を得ている。状態の変化に応じ、医療機関や特別養護老人ホーム等への移行の必要性を説明し、必要に応じて、家族の意向に沿った範囲で支援状況を関係先に伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨今は介護職員の定着が難しく、全ての職員が定期講習を受ける体制づくりには道のりが長い。新任者のスキルが上がっていく中で訓練を組み入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	上記と同じ理由で全職員の習得には道のりが長い。地域協力には恵まれており、強固な体制が築かれている。	市のハザードマップでの指定はない。年2回、消防署立会いの避難訓練を実施しており、1回は夜間を想定して行なっている。避難場所は近隣の公民館となっている。訓練は、運営推進会議に併せて実施し、委員から意見を頂き、また取引業者の参加も得ている。地域防災会と協定書を取り交わし、地域との協力体制も確立されている。	運営推進会議に併せて避難訓練を実施するなど、工夫されている。夜間想定の実施しており、今後は、暗い中での訓練を実施し、課題を把握しその対応等を検討されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何よりも重要視している。職員の関わる姿勢だけで利用者様の心身の健康は大きく変わることを理解している。	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応は、一人一人でも異なり、職員で共有している。排泄の失敗も「大丈夫ですよ」と声掛けし、調理でも、危ないからと包丁を持たせないのではなく、職員の見守りの下でやっていただき、居室のノックも利用者の聴力に応じた強さにする等、一人一人の能力に沿った対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上記同じく職員が関わる姿勢に注意し、利用者様が希望を表出できる環境、および焦らずに考えを組み立て決められる雰囲気をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日程で決まっているのはリハビリ体操の時間と食事や入浴。それ以外は、思い思いの時間をつくっていただき、出勤職員は必要な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のニーズに合わせて美容院に通ったり、好みの服を買ったりできる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日課になっている。多くの利用者様が食事作りに関わっている。役割を担う喜びに繋げている。	献立は会社の栄養士が作成し、調理は主にベテランの職員が担当し、職員も一緒に食事している。利用者は、自分の配膳・下膳、食器拭き等を役割としている。行事食として、正月のお節、節分の恵方巻き、お雛様のちらし寿司、5月のちまき等々、季節や行事に応じた食事を提供している。誕生会には、本人の希望でがんづきを作っている。道の駅などでの外食の機会も増やしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や季節も考慮しながら紙パンツ等の補助品を使うものの全利用者様が事業所のトイレを使用し排泄ができています。回数や時間等をそのつどチェックしながら自立に向けて検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科検診を受け、本人の力に応じた支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調や力に応じて硬さや大きさ、嗜好に応じて食材の工夫をしている。水分補給には特に重要視しここに合わせて工夫している。	排泄チェック表でパターンを把握し、個々のペースに合わせて声掛けし、トイレに誘導している。自立の方が1名、リハビリパンツ使用が8名で、排泄用品の使用については、改善に向けて常に検討し、自立に向け根気よく支援している。夜間のおむつ使用がなくなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操、トイレ使用等で取り組んでいる。便秘による心身の変化を察知し、排便サイクル改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員体制と個々の体力等の配慮をしつつ、可能な限り時間の選択ができるよう工夫している。	浴室は、毎日入浴できるよう準備している。利用者は、週2、3回、午後に入浴しており、入浴しない日は、足浴や清拭をしている。今年は、家族が持参した菖蒲湯を楽しむことが出来た。家族と温泉に行く利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活サイクルや体調に合わせており、必要に応じて食事を遅らせたり、休息場所を提供したり工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	段階的に介護職員は薬の効用を学び、特徴や副作用などを理解している。薬による変化を細かく観察し通院時の医師への相談に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リハビリ体操以外に画一のレクリエーションは設けず、個々に時間をつくられている。食事や洗濯などの役割を担ったり、趣味活動をマイペースで行なったりと各々が楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季以外は月に3回程度、遠足を計画している。行き先は利用者様との談話から考える。また個別に外出することも多く、知人や御家族様と出かけるケースも少なくない。	天気の良い日は、事業所周辺を散歩し、近くの保育園の園児を眺めたりしている。近所に花作りの家があり、庭を觀たり、花を貰って帰ることもある。また、町内の小規模多機能ホームの訪問や通院時、同行の職員とスーパーやコンビニで買い物する利用者もいる。お花見、前沢春祭り、紅葉見物など、外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状態に応じてではあるが、財布(お金)を所持するケースが多い。自尊心を損なわないよう留意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。自尊心の維持に加え残存能力の維持にも繋がっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は高い天井と大きな窓で自然風が流れやすい構造となっている。台所もホールから見え、トイレの場所も工夫している。また屋内の装飾は季節に応じて頻繁に入れ替わり、利用者様と職員の共同作品が殆どである。	共用のスペースは、床暖房で、天窓からの光で室内は明るく、車椅子で自由に移動できる広さが確保できている。食卓、椅子、テレビ、ソファ、空気清浄加湿器、クーラー等が整備され、壁面には、節分の飾り、利用者の作品の塗り絵が掲示されている。置敷きのコーナーがあり、個々に過ごせるスペースとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や窓辺のスペースなど居室以外でも個々に過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約前の居室には中型のダンスとカーテンのみの設置としており、ベッドなど好みのものを持たせただけのようにしている。	居室は床暖房で、整理ダンスは備え付け、ベッドは持ち込みやレンタル、事業所の物と様々である。夫々、家族の写真や衣装ケース、椅子、机など、必要なものを持ってきている。利用者が生活しやすく、落ち着いた環境が整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台には車椅子利用者でも届きやすい高さになっている箇所がある。廊下やトイレには手すりや立位バーが設置されている。浴槽には着脱可能な立位バーや補助椅子がある。		